## 再評価結果(令和5年度事業継続箇所)

<u>担 当 課:道路局 国道・技術課</u> 担当課長名:長谷川 明弘

担当課長名:長谷川 朋弘 事業 | 国土交通省 事業 一般国道 4号 北上拡幅 事業名 一般国道 区分 主体 東北地方整備局 自: 岩手県北上市相去町字笹長根 起終点 延長 12. 2 km 至:岩手県北上市飯豊町村崎野19地割 事業概要 ¦ -般国道4号は東京都中央区から青森県青森市に至る延長836.4kmの主要な幹線道路である。北 上拡幅は、岩手県北上市相去町字笹長根~飯豊町村崎野19地割間に至る延長12.2kmの4車線道路 である。 S57年度事業化 | H7年度都市計画決定 | S58年度用地着手 S57年度工事着手 約207億円 事業進捗率 全体事業費 約95%|供用済延長 9. 2 km (令和4年3月末時点) 計画交通量 30,600台/日 B/C 総費用 (残事業)/(事業全体) (残事業)/(事業全体) 基準年 : 総便益 (事業全体) 1. 4 費用対効果 30億円/ 475億円 147億円/ 667億円 走行時間短縮便益:129億円/ 567億円 分析結果 事 業 費 : 19億円/ 431億円 令和4年 走行経費減少便益: 16億円/ 91億円 (残事業)4.9 維持管理費 : 11億円/ 4 4 億円 交通事故減少便益: 1.3億円/ 8.3億円 感度分析の結果 : 残事業について感度分析を実施 【全体事業】交通量変動: B/C=1.3~1.5(交通量 ±10%) 【残事業】B/C=4.4~5.4(交通量  $\pm 10\%$ 事業費変動 : B/C=1.4~1.4(事業費  $\pm 10\%$ B/C=4.7~5.3(事業費  $\pm 10\%$ 事業期間変動 : B/C=1.3~1.5(事業期間 ±20%) B/C=4.8~5.1(事業期間 ±20%) 事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率 (渋滞損失時間:16.2万人·時間/年、渋滞損失削減率:約8割削減) ②国土・地域ネットワークの構築 ・当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する (北上市~奥州市 38分→37分(1分短縮)) ③災害への備え ・岩手県地域防災計画にて緊急輸送道路(1次路線)に指定 他12項目に該当 関係する地方公共団体等の意見 〇岩手県知事の意見 「対応方針(現案)」案に対して異議ありません。 1 一般国道4号北上拡幅は、自動車産業など東北有数の産業集積地である北上・金ケ崎地域の渋滞 区間の緩和・解消などの効果が期待されることから、早期完成に向け、コスト縮減にも最大限に配 慮しながら、事業の進捗を図るようお願いします。 〇以下の団体等から、整備促進について要望あり 北上市(北上市長) 事業評価監視委員会の意見 ・対応方針(原案)の事業継続は妥当である。 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。 事業の進捗状況、残事業の内容等 ·昭和57年度新規事業化、用地進捗率約98%、事業進捗率約95%(令和4年3月末時点) 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・事業の進捗に係る問題はない。 施設の構造や工法の変更等 ・歩道拡幅構造の見直しにより、コスト縮減を図っている。

対応方針 事業継続 対応方針決定の理由 国道4号の交通混雑の緩和、交通事故の減少、救急医療体制の強化、沿線自治体の産業支援、冬期にお ける円滑な物流の確保等のため、早期整備の必要性が高い。 至 盛岡 E4 東北縦貫自動車道 青森県 \$57~H7年度 順次開通 延長6.2km 車線拡幅済区間 北上市 北上拡幅 延長12・一般国道4号 107 北上江釣子IC 岩手県 一般国道4号 秋田県 北上拡幅 北上北市役所和 ■ : 開通済 ■■ : 事業中 □□□ : 未事業化 E46 H10~H22年度 順次開通 延長2.9km その他道路凡例 一 道路種別 ― 2 詳細
詳細
詳細
詳細
詳細
詳細
詳細
詳細
計画
計画 2 山形県 宮城県 丁/15=21,834台/日 km km 4車線拡幅 事業中区間 (現況2車線) 延長3.0km ■ : 4車線 ■ : 2車線 北上金ケ崎IC その他凡例 金ケ崎町 列 : 市役所 : 役場 : H27センサス交通量 : 主要渋滞箇所 : DID地区 福島県 起点 岩手県北上市相去町字笹長根

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。